

平成28年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文
中学校の部 最優秀賞



「ヘイトスピーチ」をなくすために

福島市立福島第三中学校
3年 林 帆夏

「朝鮮人は今すぐ日本から出ていけ。」

「日本に朝鮮人は必要ない。」

目の前に映し出される映像を見て、私は衝撃を受けたことを覚えている。

中学1年生の秋、あるビデオを見る機会があった。「ヘイトスピーチ」というものだった。初めて聞く言葉で意味は知らなかったが、なにか嫌なものを感じた。「スピーチ」という言葉から、話すことに関係あるのだろうかと思って、興味がわいた。

しかし、私はその「ヘイトスピーチ」を見て、かなりのショックを受けた。

道路に広がる大勢の日本人。その人達がメガホンや拡声器などを持って、なにかを口々に叫んでいる。よく集中して聞いてみると、信じられないことを言っていた。

「朝鮮人は日本にとって有害だ。」

「日本から出て行け。」

「朝鮮人など消えてしまえ。」

人前で言えないような下品な言葉も叫んでいる。あまりのひどさに、私はビデオから目を背けた。

こんなことが本当に日本で起こっているのか。嘘なのではないか。私は目を疑った。しかし、これは紛れもない事実なのである。

「日本人の優しさは世界一だ」と聞いたことがある。日本人の行動は海外の人々から賞賛されているし、私もそれを誇りに思っていた。しかし、この映像を見て、腹が立つとともに、同じ日本人として恥ずかしく、そして悲しくなった。

まず、「ヘイトスピーチ」とは何なのか。調べてみると、「ヘイトスピーチ」とは、人種、出身国、宗教、性的指向、性別、障がいなどに基づいて、個人または集団を攻撃、脅迫、侮辱する発言や言動のことだという。

このことから、私がビデオで見た「ヘイトスピーチ」は、出身国の違いを差別したものだとなった。

また、日本だけでなく、他の国々でも、「ヘイトスピーチ」は行われていると知った。今回のものは、日本人から朝鮮人に向けられたものだが、逆に外国の人々から日本人に向けられるものもある。つまり、「ヘイトスピーチ」は、どこでも起こると言える。他国の人間同士はもちろん、同じ人種間でも起こりうるのだ。

そして、「ヘイトスピーチ」は、誰にでもできる。私達中学生にもできてしまうという怖さがある。発言や言動は簡単だからだ。言葉はすぐに口に出せる分、すぐに消えてしまい、残らないというところがある。

しかし、「ヘイトスピーチ」は、言葉の暴力なのである。言葉の暴力によって、傷ついている人がたくさんいるのだ。「ヘイトスピーチ」は人の心を傷つける。つまり、これは「武器を使わ

ない戦争」だと思った。

初めは一方的な言葉の攻撃だったものが、相手もそれに応じてしまう。すると、お互いに自分の考えを相手に強制してしまい、最悪の場合、武器を使った戦争へとつながってしまうのではないか。「ヘイトスピーチ」が戦争のきっかけになる恐れもあるのだ。

だから、戦争を起こさないために、傷つく人々を減らすために、「ヘイトスピーチ」をなくす努力が必要だと思う。

「ヘイトスピーチ」の原因は、自分との違いからくる偏見ではないだろうか。人は違いがあるから、それぞれの良さがある。違いを良い面からとらえると、それは個性となる。しかし、違いを悪い面でもとらえると、偏見となってしまうのである。

違いを良い面でもとらえるか、悪い面でもとらえるかは、ものを見る気持ちの問題だと思う。悪く思っているものも、本当は良いものなのかもしれない。すべて悪いわけではないのかもしれない。先入観を取り払い、常に新しい気持ちでもものを見るのが大切なのではないか。

私がよく行く韓国料理店がある。その店は、韓国人の女性が営業していて、彼女と私は仲がいい。日本語が上手で人柄も温厚だし、なんといっても、彼女が作る料理はとてもおいしい。

私は彼女や韓国のものに対して、なんの偏見も持っていない。それは、お互いのことをよく知り、良いところを分かっているからである。

私は彼女と出会う前、韓国のことについてあまり知らなかった。だが、彼女と話していくうちに、韓国の文化に面白さを感じ、韓国のことが大好きになった。好きになることで、良さや自分の国との違いが分かり、韓国の良さはもちろん、改めて日本の良さを実感できた。例えば和食は、盛り付けの美しさ、素材を生かした味つけなど、日本らしさがあって良い。そして、韓国料理はというと、身体が温まる辛めの味つけ、長期保存に適した食べ物の知恵など、和食にはない良さを持っている。

私は、見る、話す、食べることなどで韓国の良さが分かった。だから、大切なのは、自分の外に向けてたくさんのアンテナを張り、いろいろなことを感じとって、良さを知ることだと思う。

だが、そんな私でも、外国の人に偏見を持ってしまったことがある。私がアメリカを旅行していた時の経験だ。街を歩いていると、道の向こうから背の高い白人の男性が歩いて来て、少し怖くて近づきたくないと思ってしまった。しかし、その男性は私に対して、にこやかにあいさつをしてくれた。私が上手に英語を話せなくても、ジェスチャーで表現してくれて、仲良くなることができた。

私はその時、外見だけで人を判断し、この人は怖い、とってしまった。でも、それはあくまでも、自分の中だけのイメージだったのである。

自分の中の思い込み、先入観を壊して、その人や国のことを知れば、偏見はなくなるのではないか。そして、偏見がなくなれば「ヘイトスピーチ」もなくなるに違いない。人の話を聞くだけでなく、実際に見たり、触れたり、体験したりして、自分から相手を知る努力が大事なのである。

そのためには、日々の中でもっと異文化と触れ合う機会が必要なのではないか。自分の身をもって体験することで、異文化への理解が深まるだろう。逆に異文化と触れ合うことがなければ、いつまでも新しい世界を知ることができず、決まった考えしか生まれない。「知る」ということが、自分の中にある固定された考えの壁を壊し、新しい自分につながることを皆に知ってほしい。

世界から偏見の目が消えることは、簡単なことではないだろう。だが、一人一人が異国、異文化、異性の良さをお互いに認め合い、偏見をなくそうと自分の意識を変えれば、「ヘイトスピーチ」撲滅のゴールに一步近づくはずだ。

自分が持っている他人との違い。それを誇りに思い、胸を張って生活できる。そんな世界を私はつくっていききたい。